

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 4 月 5 日 (2007.4.5)

【公表番号】特表 2006-519292(P2006-519292A)

【公表日】平成 18 年 8 月 24 日 (2006.8.24)

【年通号数】公開・登録公報 2006-033

【出願番号】特願 2006-503724(P2006-503724)

【国際特許分類】

C 0 8 G 61/00 (2006.01)

C 0 8 L 65/00 (2006.01)

C 0 7 D 307/88 (2006.01)

C 0 7 D 309/32 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 61/00

C 0 8 L 65/00

C 0 7 D 307/88

C 0 7 D 309/32

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 14 日 (2007.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

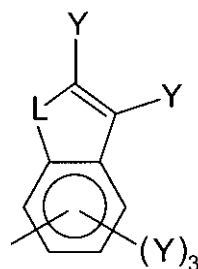
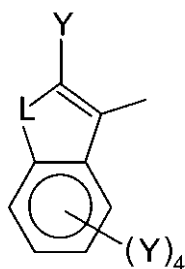
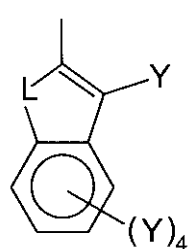
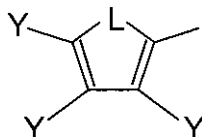
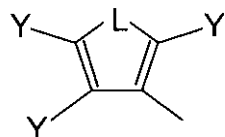
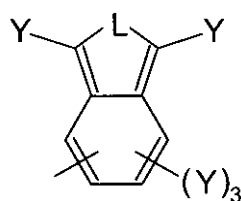
(a) 少なくとも 2 個の環状官能基を含む第一のモノマー、(b) 少なくとも 2 個のジエノフィル官能基を含む第二のモノマーを含む反応混合物を準備し、そして

前記反応混合物を加熱して、重合した又は部分的に重合したポリアリーレン材料を生成させることを含んでなり、前記第一又は第二のモノマーの少なくとも一つが、少なくとも 3 個の官能基を含んでいなければならない、且つ前記第一のモノマーの環状基が 2 つの共役炭素 - 炭素二重結合及び、- O - , - S - , - (S O₂) - , - N = N - 又は - O (C O) - から選ばれる脱離基 L の存在によって特徴づけられる架橋された又は架橋性のポリアリーレンの製造方法。

【請求項 2】

前記第一のモノマーが式：(D E)_n - X (式中 D E は、

【化 1】



から選ばれ、Lは - O - , - S - , - (S O₂) - , - N = N - 又は - O (C O) - から選ばれ、Yは、それぞれ独立に、水素、炭素原子 6 ~ 10 のアリール基、炭素原子 1 ~ 10 のアルキル基又は 2 つの隣接する Y 基がそれらに接続する炭素原子と一緒に、炭素原子 6 の芳香環を形成し；

n は 2 又はそれ以上の整数であり；そして

X は多価の結合基又は単結合である）である請求項 1 に記載の方法。

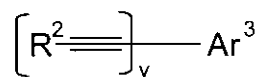
【請求項 3】

L が - O - 又は - O (C O) - である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記第二のモノマーが式：

【化 2】



(式中、R²は、独立に、H 又は、非置換もしくは不活性置換の芳香族残基であり、Ar³は、独立に、非置換の芳香族残基又は不活性置換の芳香族残基であり、そして y は 3 又はそれ以上である) を有する請求項 2 に記載の方法。

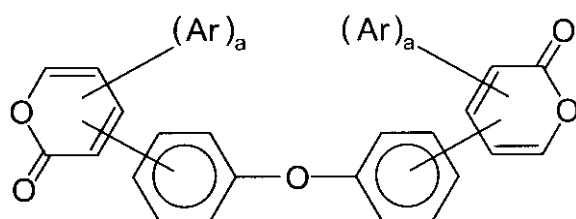
【請求項 5】

モノマーが溶媒に分散されている請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記第一のモノマーが式：

【化 3】



(式中、Arは芳香族基であり、aは0, 1又は2である)を有する請求項1に記載の方法。

【請求項7】

請求項1に記載の方法により製造される硬化性ポリマーであって、重合がゲル化の生ずる前に停止されたポリマー。

【請求項8】

請求項7に記載のポリマーを含んでなる組成物。

【請求項9】

ボロゲンを更に含む請求項8に記載の組成物。

【請求項10】

請求項7に記載のポリマーを含んでなり、そのポリマーが引き続き加熱により硬化されているフィルム。

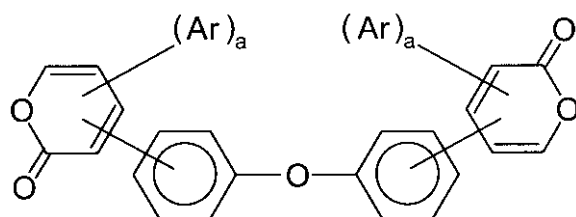
【請求項11】

請求項10に記載のフィルムを含む成形品。

【請求項12】

式：

【化 4】



(式中、Arは芳香族基であり、aは0, 1又は2である)を有するモノマー。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

【化 3】

